

～ 第4次多摩市生涯学習推進計画 ～

令和3年度 内部評価 総評

多摩市では、令和3年度から第4次多摩市生涯学習推進計画がスタートしました。

本計画では、多摩市の生涯学習をめぐる主な課題を解決するために、また、第五次多摩市総合計画で掲げている“誰でも健康で幸せを実感できる健幸都市”を実現するために、『学びあいがつむぐ“健幸”なまち～「ふれあい」からはじまる地域づくり～』を基本理念に掲げ、市民の学びの支援のため、基本理念の実現に向けて、4つの目指す方向を定め、目指す方向ごとに推進項目を掲げて、推進項目ごとに成果目標を設定しています。

令和4年度は、本計画に掲げる「個人や地域のニーズや社会の変化に応じた生涯学習環境の充実」や「新たな市民活動の場の創出」といった課題の克服をしていく視点を持ち、推進項目ごとの施策事業の進捗・実施状況を全庁照会により確認し、その結果を基に、推進本部において令和3年度に実施された事業の内部評価を実施しました。

【令和3年度の振り返り】

令和3年度は前年度に続き、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、イベントや対面での事業の中止がありました。しかしコロナ禍でも、縮小しつつも事業を実施したこと、参加人数を減らしつつ事業回数を増やして対応したこと、会議や居場所の情報提供をオンラインで行ったこと、大規模改修中のパルテノン多摩では他の公共施設を使ってアウトリーチ事業を行ったことなど、市民への情報発信や学習機会、学習の場の提供を継続するために様々な工夫をしてきました。

個別施策の「**⑩多世代交流の場づくりの推進**」では、次年度以降に向けて、市民活動や交流の場となる市民活動・交流センターの整備や多摩市版地域包括ケアシステムネットワーク連絡会の立ち上げ準備、永山フェスティバル自体は中止しつつも以前の永山フェスティバルの写真展示を開催するなど、再開を見据えた取組を実施しました。「**⑪ボランティアセンターの充実**」及び「**⑮オンライン・通信教育での学習サポート**」では、YouTube多摩市公式チャンネルの登録者数など、前年度より成果が上昇しており、充実を図ることができた事業もありました。

さらに、「**⑳SDGsの取り組みの拡充**」では、水辺の楽校を中心に、自然観察会にとどまらず、川清掃などの取組が市民主導で広がっています。社会・経済は健全な自然環境の上に成り立つというSDGsの考え方に気付き始めた多様な主体が、この川清掃の活動の場に集まりつつあり、そこからコミュニケーションの広がりも始まっています。

一方で、「**㉑市民活動やボランティア活動に気軽に参加できる仕組みづくり**」では、参加者の増加は見られますが、本来、幅広い世代の参加が望まれるボランティア活動について、年

年齢層に偏りがみられており、次代の地域の担い手づくりを見据え、年齢層の拡大が課題となっています。

また、「**⑩市民・民間・行政が一体となった事業等の実施**」では、商店街のイベントの集客数にみられるように、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、前年度より成果が減っている事業もいくつかみられます。

課題と思われる事業はありましたが、コロナ禍において誰もが集える居場所づくりや学習支援の提供、適切なサポートの提供、地域活動に参加する機会づくり等の提供などを通じて、多様な人たちが障壁を感じずに安心して暮らせるまちづくりができるよう、本計画に基づき事業を継続してきました。

【今後に向けて】

令和5年度は、11の推進項目ごとに設定した成果目標の向上が図られているか、内部評価と合わせて学識経験者等による外部評価の実施を予定しています。

現時点においても新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されますが、今回の評価の視点を踏まえ、各推進項目の施策事業を実施していくことを通して、学びあいがつむぐ“健幸”なまちの実現を目指します。